

母校とわたし

昭和学院高校 ▼▼▼②

全国レベルのバトン部をコーチとして指導しているのが、79年卒業の田中より子さん(45)。82年の第3回世界バントワーリング選手権大会チームの部で3位を獲得したバトンの第一人者だ。

現在は、コーチをしながら「田中よりこバトンスタジオ」を経営し、バトンの普及と育成を手がけてい

る。

小学校から短大まで「昭和学院」だった。バトンに興味を持ったのは10歳ごろ。「バトンが欲しい」と親にねだったことを覚えている。小学6年で始め、卒業までバトン部で汗を流した。

中学3年の時、父を病気で亡くした。感受性の強い

時期。当時の担任、久松英壽氏(現校長)は「反動で勉学やバトンに投げやりにならないかと心配したが、動じないで通り打ち込んで

バトンコーチ

軽やかにバトンを操る田中さん
=市川市宮久保1の自宅で



練習に没頭の3年

都内のバトンスタジオに通つて腕を磨いた。「高校

時代はバトンしていった記

憶しかないですね」と笑

う。

日本では高校野球の応援活動の中で普及したバトントワーリング。高校時代、部員は5人ほどだった。当時は試合応援やパレードを彩るものから技術、芸術性を競い合うスポーツへと脱皮

た。転機は高校3年で訪れた。バトンスタジオから出場した78年度全日本バトン

トワーリングソロコンテスト。「私も出してもらえた

。

ントワーリングソロ大学の部で2連覇。バトンを天井ま

れ、短大生だった79年から

全国大会出場に導

。

4回が最高だった。このとき、久松氏は名古屋市の会場まで家族で応援に駆けつけている。「大学に入ってからも同じ活動を続ける生徒は少ない。中学校3年間

。

担当して、高校に入つてからもバトンを続ける様を見るのは思わなかった。昭和学院があるから、今もバト

ンを続けていているのかもしれません

。

バトンを愛し、バトンに

いた。まじめでしんの強い子だった」と振り返る。

日本では高校野球の応援活動の中で普及したバトントワーリング。高校時代、部員は5人ほどだった。当時は試合応援やパレードを彩るものから技術、芸術性を競い合うスポーツへと脱皮する過渡期だった。活動といつても「学園祭で踊る程度」。物足らず、週末には

田中より子さん(45)

転機は高校3年で訪れた。バトンスタジオから出場した78年度全日本バトン

トワーリングソロコンテスト。「私も出してもらえた」という軽い気持ちで投げ、4回スピンした後

高校のバトン部で指導。2

る。

【中川聰子】